

機関番号：27103

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720123

研究課題名（和文） 包括的な格理論の構築を目指した格体制の交替現象に関する研究

研究課題名（英文） A Study on Alternation Phenomena in Modern Japanese: A step towards Constructing a Comprehensive Case Theory.

研究代表者

川野 靖子 (KAWANO YASUKO)

福岡女子大学・文学部・准教授

研究者番号：00364159

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような交替現象が起こる仕組みを明らかにすることである。従来の理論では、交替を起こす動詞(ex.塗る)と交替を起こさない動詞(ex.付ける)の違いが十分説明できていなかったが、本研究では動詞の範疇的語義の階層性に着目した新しいアプローチを考案し、これによって両者の違いを説明した。

さらに本研究では、上述のアプローチが、いわゆる「壁塗り代換」だけでなく、他のタイプの交替現象にも適用できることを明らかにした。また、日本語だけでなく、英語の交替現象にも基本的に適用可能であるという示唆も得られた。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this study is to explain why some verbs such as *nuru* can alternate, while other verbs such as *tsukeru* cannot. Although this problem had been left unsolved in previous studies, this study succeeded to explain the differences between alternating verbs and non-alternating verbs by introducing a new approach which focused on the hierarchy of verb's categorical meaning.

In addition to that, this study showed the possibility that this new approach could also be applied to English alternation phenomena such as locative alternation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	200,000	60,000	260,000
2010年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1040,000

研究分野：日本語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：壁塗り代換、餅くるみ交替、格、動詞、意味階層、locative alternation、範疇的語義

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」
「グラスに水を満たす／グラスを水で満たす」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ、広く知られている。しかし、こうした現象がどのような仕組みで起こるのかについては、十分明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、壁塗り代換のような格体制の交替現象が、どのような仕組みで起こるのかを明らかにすることにある。

3. 研究の方法

本研究の、方法上の特色は次の二点である。

(1) 交替を起こす動詞 (ex. 塗る) だけでなく、交替を起こさない動詞 (ex. 付ける) にも着目し、両者の意味特徴を比較するという方法を徹底したこと。これにより、交替を起こす動詞の条件を予測可能な形で記述することができた。

(2) 従来から知られている壁塗り代換だけでなく、従来知られていなかったタイプの交替現象や等閑視されていたタイプの交替現象についても記述して新たに関連づけ、当該現象の全体像を把握した上で分析を行ったこと。これにより、壁塗り代換のみを見ていたのでは得られなかった新しい知見を得ることができた。

4. 研究成果

本研究では、動詞の範疇的語義に階層を考えるという新しいアプローチを考案し、このアプローチに基づいて交替現象が起こる仕組みを説明した。

まず、交替を起こす動詞と起こさない動詞の違いについては次のように論じた。従来の研究は、位置変化や状態変化という範疇的語義によって交替動詞の特徴を記述しようとしてきたが、位置変化を表す動詞の中にも、交替を起こす動詞と交替を起こさない動詞があり、状態変化についても同様である。このことは、位置変化や状態変化という概念では交替動詞と非交替動詞の違いが記述できず、位置変化や状態変化よりも下位の語義の階層において交替動詞の特徴を抽出する必要があることを示している。このような着想に基づいて分析を行った結果、交替動詞の表す位置変化・状態変化は、それぞれ依存的転位・総体変化として特徴づけられるものであり、両者のシフトによって交替が起こることが分かった。

次に、同じく交替を起こす動詞の中にも、壁塗り代換を起こす動詞もあれば、これとは異なるパターンの交替（餅くるみ交替）を起

こす動詞もあることに注目し、このような交替パターンの決定がどのようになされるのかを検討した。その結果、交替パターンの決定は、交替の可否を決定する語義の階層よりも、さらに下位の階層においてなされることが明らかになった。つまり、格体制の交替現象は、動詞の範疇的語義に「格体制を決定する階層」→「交替の可否を決定する階層」→「交替パターンを決定する階層」の三つ階層を考えることで説明できるといえる。

さらに、日本語の壁塗り代換や餅くるみ交替に相当する現象がある英語についても、本研究の提案した、動詞の範疇的語義の階層性に着目するアプローチが基本的に適用可能であるという示唆も得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- ① 川野靖子「塗り代換と餅くるみ交替の両方が可能な動詞—「巻く」と「埋める」の分析—」『文藝と思想』査読有、第 75 巻、2010 年、201～217 頁
- ② 川野靖子「壁塗り代換を起こす動詞と起こさない動詞—交替の可否を決定する意味階層の存在—」『日本語の研究』査読有、第 5 巻 4 号、2009 年、47～61 頁

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 川野靖子「現代日本語における壁塗り代換の分析—動詞の意味の階層性に着目したアプローチ—」第 9 回日本語文法学会、2008 年 10 月 19 日、於：甲南大学
- ② 川野靖子「「変化／動作」と「限界／非限界」の違いについて—アスペクト研究における二種類の動詞分類—」第 6 回現代日本語文法研究会、2008 年 10 月 25 日、於：筑波大学
- ③ 川野靖子「動詞の意味の階層性に着目した壁塗り代換の分析」第 98 回関東日本語談話会、2008 年 6 月 7 日、於：学習院大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川野 靖子 (KAWANO YASUKO)
福岡女子大学 文学部 准教授
研究者番号：00364159

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

